

第1回企画検討委員会

協議内容	(1) 本事業の説明 (2) ヒアリング調査(グループインタビュー)について (3) 今後の動きについて (4) その他
日時	2009年8月29日(土) 13:00~16:00
場所	社団法人日本精神保健福祉士協会事務局
参加者	竹島正、岩井英典、木下浩、岩崎香、木太直人、大塚淳子、吉野比呂子、木谷雅彦(オブザーバー)

(1) 本事業について

- ▶ 企画書概要の説明。自殺の社会的要因を抱える人々への相談機関と精神科医療機関等との連携促進は急務の課題となっており、司法書士と精神保健福祉士の連携が促進されることは福祉の相談窓口の連携につながり、有効な自殺予防対策の一つとなりうる。
- ▶ 本協会としては、ネットワークや具体的な連携の構築を模索していきたい。また、自殺問題には多くの精神保健福祉士が関与していると思われるが、従来タブー視もしくは扱いづらいとされてきた問題であり、防げた例が成功例として、また防げなかった例が失敗例として集積されてきていない。また国策となったわけだが、対策としての自殺予防という見方が今までの実践ではあまりされてこなかった。
- ▶ 企画検討委員会の位置付けは、年に3回ほど、進捗の節目で意見交換、方向性確認などを行う。

(2) ヒアリング調査(グループインタビュー)について

- ▶ 目的：精神保健福祉士と司法書士への質問紙調査の調査票項目の作成、来年度作成予定である「自殺予防の手引き(仮称)」に関する基礎資料の収集を目的とする。
- ▶ グループインタビュー開催日程調整および対象者選出：
 - 司法書士：自殺予防に関心があり、経験を持っており、中心的に活動している人を選定。
10月5日(1グループ)、10月18日(2グループ)
 - 精神保健福祉士：①精神保健福祉センター、保健所など行政に勤務している者1グループ、②総合病院に勤務している者1グループ、③単科精神科病院に勤務している者1グループ
10月中~11月中
- ▶ 質問項目の確認：
 - 司法書士、精神保健福祉士に関する認識の程度と内容。
 - 自殺予防に関して、現状でどのような課題を感じているのか。
 - 司法書士、精神保健福祉士、相互に求めるものは何か。
 - 司法書士はどのようなものを精神保健のニーズと捉えているのか。
 - 精神保健福祉士はどのような社会的課題をニーズとして捉えているのか。
 - 司法書士、精神保健福祉士双方を知るためのレクチャーの機会が必要。事前の資料提供と合わせてそれぞれの職種の業務内容を熟知している人がリーダー的にグループに存在することで補えるものとする。

(3) 今後の動きについて

第2回企画検討委員会候補日

2010年1月8日(金)もしくは1月15日(金)

連絡方法としてはメールリスト(ML)を活用する。

以上

第2回企画検討委員会

協議内容	(1) 本事業のこれまでの経過説明 (2) 質問紙項目の確認、質問紙調査の協力体制等の確認 (3) 今後の予定について (4) その他
日時	2010年1月15日(金) 13:00~16:00
場所	社団法人日本精神保健福祉士協会事務局
参加者	船橋幹男、齋藤幸光、木下 浩、入山和明、竹島 正、川野健治、木谷雅彦(オブザーバー)、 岩崎 香、木太直人、大塚淳子、吉野比呂子

(1) 本事業のこれまでの経過

▶ 対象者の選出

司法書士グループに関しては、企画検討委員が選出した日本司法書士会連合会内の3委員会に依頼、各委員会開催後に実施するように配慮。精神保健福祉士に関しては、企画検討委員が選出した精神保健福祉士構成員に個別で依頼をした。結果精神保健福祉士は首都圏域の構成員となった。グループインタビュー対象者には事前に依頼文と双方の団体のパンフレットを同封し、予備知識を持っていただいた。

[司法書士 司法書士会館会議室]

平成21年10月 5日(月) 自死対策ワーキングチームメンバー8名

平成21年10月14日(水) 広報委員会メンバー8名

平成21年10月26日(月) 市民救援委員会メンバー8名

[精神保健福祉士 日本精神保健福祉士協会事務局]

平成21年10月27日(火) 行政機関の精神保健福祉士8名

平成21年10月30日(金) 総合病院の精神保健福祉士7名

平成21年11月13日(金) 単科精神科病院の精神保健福祉士9名

グループインタビュー：インタビューの時間は90~120分。毎回、速記センターより速記者1名が派遣され速記と録音にて記録。作成された逐語録は各グループインタビュー対象者に校正を依頼。

(2) 質問紙項目の確認、質問紙調査の協力体制等の確認

▶ 対象者数：抽出対象によっては仮に自殺対策に関心が低すぎる結果が出た場合は、母集団のサンプルを検討する。日本司法書士会連合会で把握できるとすれば、各司法書士会の理事、総計1,000名の中からランダムに選出した500名。

▶ 質問紙項目について：関与事件数および事例を聞く対象期間は1年間とする。

▶ 件数カウントの定義：接点＝相談（事務所での電話もしくは来所相談もしくは受任）エピソードごと。事例性については質問紙調査というよりは、グループインタビューの分析を深めて報告する。

(3) 今後の予定について

▶ 2月1~3日を目標に本日の意見を反映した調査票案をつくり、企画検討委員会MLで確認していただく。事前に事務局とセンター内で研究者から精査とアドバイスをしておく。

▶ 2月11日に日本司法書士会連合会主催のセミナー。プレ調査は5名ほどにお願いし2月12日会議当日行う。メンバー選定は日本司法書士会連合会に一任。プレ調査の結果を受けて、修正完成させたものを3月10日目標に発送。質問紙調査の表紙に依頼文を入れる。回収期間は2週間。

▶ 3月末の報告には、研究概要とグループインタビューの分析および重要カテゴリーを受けて作成した質問紙調査の実施および回収まで完了することを目標とする。

▶ 第3回の企画検討委員会は2月下旬を予定。日程等はMLで確認する。

以上